

---

# ～ 苦い恋愛話 ～

リンカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

＼ 苦い恋愛話 ＼

### 【Nコード】

N5222C

### 【作者名】

リンカ

### 【あらすじ】

主人公あいが、体験した小学校3年カラ、現在中学2年に至るまでの、涙と感動の物語リデス

## プロローグ（前書き）

なし

## ブログ

私は、現在中学2年生！！

その苦い恋愛わ、私が小学3年生の時カラはじまる。

涙と感動の実話デス！！

長いとおもいますが、

頑張つて書きます

## プロローグ（後書き）

なし

## 第一章　初恋の人

時ワ．．．．

今から5年前．．．．

あたしわ、初恋の人に出逢う．．．．

その時まだ幼かった私にわ、

人を好きになることが、

どおゆう事なのか、

まだ知らないでいた。

一度、恋をした人わ

分かるだろう。

人を好きになるのわ

毎日が楽しくて、

嬉しくて、

その日その人に逢えた事で、

気分がよくなる。

学校がやすみの日わ

妙に淋しくて、虚しくて……

月曜日の朝なぜか

はりきって登校。

その人を見てるだけで安心するような。

フワフワと宙に浮いた感じ。

でも、それと同時に

悲しくて、

心が張り裂けるくらい

好きで、好きで。

凄く好きなのに、

相手わそんなあたしに、

きずいてるのか、

きずいてナイのか。。。

不安になる。

でも、周りの人にわ

恥ずかしくていえなかった。

この頃のあたしわ……。まだ本当の恋を知らなかった。

あたしわ独り、この心の痛さに、

立ち向かうしか、ナイのかな。

そう思ってた。でも、

無理だった。たった一つの心でわ

納まらないくらい、

その人が好き。

その事を、その時ものすごく、仲のヨカッタ、友達に話した……。

話終えた途端、心が軽くなって、

相手の男子の事を、

もっと、もっと

今以上に好きになる事が出来る。

そう感じた!!

その時、まだあたしにわ、

一生消える事がナイ

存在が彼だという事に、

キズかないでいた。

## 第2章↳幸運と痛み

あいのクラスわ3年2組””

今日は席がえ””

少しの希望をもって、  
くじをひく。。。

7番

「はい。でわ皆さん、黒板の図を見ながら、席を移動して。」

ガタ・・ガタツ・・・

「あつ！ここかあ。一番うしろかあ」

「ああ、オレの横  
お前？？」「うん！！よろしく。」

「お。おう、、、  
よろしく。」あたしわなんと、

初恋の人、ダイチの

隣だった。

休み時間！！

その頃仲のヨカッタ、

親友と3人でよく行動してた。

綾と玲奈わいつもあたしに、

励ましてくれたた。

実際、ダイチが女子と話してるのを、見えて

心の奥が痛かった。

お前？？」んツツ！？」

「よく寝てんなあ」

「悪かったなあ。」

「やつ！別に・・・」

「アハハハ」

「アハハハ」

些細な事でも、ダイチと話せた事だけで嬉しかった！！

この時、（ひよっとしたら、ダイチもあたしの事・・・）

そんな希望もあった。でも・・・そうこうしてる間に

小学3年が終わった。

春休みを終えて、

クラス替え。

結果わ・・・

×

あたしわ悲しかった。

彼のいないクラスわ

何故か落ち着かなくて・・・

また一年が過ぎた。

小学5年の最後の日。

あたしわ願った。

この学年でわダイチと

同じクラスにしてください！！

でも・・・

結果わ・・・

×

あたしわ、神様なんか、

いないとこの時

心が決めた。

また1年が過ぎ。

小學校生活最後の学年。

この時もやっぱり、

ダイチの事が好きで

同じクラスになりたい。

でも、なれない。

今まで

「二分の1」の確率で

あいとダイチが離れてしまった。

でも・・・

結果わ・・・

同じクラスだった！！

あたしわ、

凄く

ー

もの凄くうれしくて、

親友と同じで・・・／

幸せだった！

この時までわ・・・

#### 第4章　自殺未遂

それから、あたしわ

毎日のように、学校にいった。

ゆってなかったけど、

ダイチとクラスが

離れてカラ、あんまりいつてナイ。

不登校というか、

あたしわいかなかった。

ダイチのいないクラスわ

居心地が悪くて、

気持ち悪かった。

それでも、あたしわ

勉強は出来た。

わかないけど、まだこの時わ

馬鹿でわなかった。

だけど、あたしわ

死にたくなよおな

言葉を

ダイチにいわれた。。。

「お前、うざい」

一番いわれたくなかった。

（あたしわ、

世界で一番嫌われたくない人に、

嫌われてしまった……。）

もう、

生きてけないよ……

もうダメだよ・・・

お父さん

お母さん

ゴメンナサイ

あたしわ、左手の

手首にカッターの刃を・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

ビュッッッ

痛ッッッ

手首わ凄く切れてた

あたしわその血で、

文を書いた。

「デアーダイチ

ゴメンナサイ。あたしわもう。

ダイチ、貴方わ

きずいてなかったかもだけど、

あたしわ大好きでした。

ダイチの事ずっと……

でも、もう無理です。」コレ見て、ダイチわ

泣いてくれる????

悲しんでくれる? /

そんな訳ナイ

だつてあたしわ

うざい” ” なんだよね。

大好きな人に、

うざい” ” つてゆわれたら、どんな気持ちか・・・ダイチにわ・・・  
・・・

一生わかんないよね・・・だから・・・

もう、あたしの事わ

忘れてください」

## 第4章　病院

遠のく意識の中、

あたしわ、血で汚れた手を見た。

血をみた途端、

頭が真っ白になった。

でも、その中に浮かぶ顔わ、

親でも、

友達でも

ペットでも

なくて・・・

ダイチだった・・・

なんで、今さら

ダイチの顔が???

やめて。

あたしの中に、

現れないで。

もう2度と・・・

もう、あたしを

くるしませるのわ

終わりにして、ください。

助けて。

誰か・・・・・・・・

あたしを助けて・・・・・・・・

もう、このヨにわ

いたくない

早く迎えに来て・・・・・・・・

その時、

一瞬ダイチが

頭の中であい””つて

よんだ。

幻聴かと思った。

でも

あ  
い  
”  
”

あ  
い  
”  
”

え  
っ  
ッ  
ッ  
！  
！

目を開けて．．．

目を．．．

あ  
た  
し  
わ

目を開けてみたそこは、見た事もナイ

薬の臭い漂う、

周りは白い壁で・・・・・・・・

そこは。。。病院だった。

ココッ!?

なんで???

あたし、さっきまで

あたしわ、あたしの

部屋で血に染まっていたのに・・・

なんで、今さら

ダイチの顔が???

やめて。

あたしの中に、

現れないで。

もう2度と・・・・・・・・

もう、あたしを

くるしませるのわ

終わりにして、  
ください。

ゝ生きる事への決意ゝ

あたしわめちやめちや、  
暴れた・・・・・・・・

そして、

点滴をちぎった。

出血わしたけど、

対した事ナイから、

無視した。

むしろ、あたしわ

さっきまでの、

部屋の中血にまみれてた。

あたしわ、約2週間

眠ったままだったらしい

ずっと

ずっと

死んだように。

このまま、死ねば

楽だったのに・・・

そおおもいながら

病院の廊下をひたすらに

あるいた。

ついた先わ・・・

屋上だった・・・

「もう一度死ねば

イイだけだよね」

あたしわ柵に手をかけた。

「やめろ!!!!!!!!!!」

「ダイチ？何かよう？？」

「俺、お前の名前

ずっと呼んでた。

聞こえた??

ずっと、お前が寝ている

2週間、毎日毎日!」

「別に……」

「そっか。」

なんで、死のうとした?」

ダイチわっぱり

分かってなかった。

あたしが、変わった理由を……

無性に腹が立った。

「うざい。それがけ。」

「はッ！？何？？」

「いいから、ほつといて。」

「オイ！

お前が死んだら、

オレわ、どうしたら、イイ？？」

「別に、好きにすれば／＼」

「オイ！！！！」

ダイチわあたしの体を

触ろつと、手を出して来た。

その手を叩き、あたしわ

飛び下りた。

「さようなら。

みんな。」

バタツツ！！

ッ！？

あたしわ、

死んでなかった。

落ちた場所わ

水の中。

川？？

「なんで死ぬチャマを……」

気がつくと、

1人のおばさんが・・・

「ここは、あなたみたいに

自殺した人がおおい

場所。

だから、死ねないように、水を張ってるの。

だから、あなたも、

死んでわダメ！！

どんなに厳しい苦しい道でも、

進まなきゃ！！」

「無理です。

あたしにわ・・・・・・・・・・」

「話してみなさい。」

あなたがそこまで、

死にたいと思う

理由を・・・・」

あたしわ、この人に

話した。

全て・・・・

リスカの事も・・・・

全て・・・・・・・・

そしたら、

「心が軽くなつたでしょ？？」

さあ生きましょう。

私と一緒に！！」

「はい。」

あたしは何故か

死ぬ事を決意した、自分に腹が立った。

それから、通院して。

体わ治った。

でも、ダイチとわ

あの日以来はなしてナイ／

生きる事！！

あたしわ、ダイチにはなしてみた。

今まであたしが変わった理由を・・・

ダイチわ

涙を流して

最後までできいてくれてた。

相槌をうちながら・・・・・・・・

そして、最後に

” ” ゴメンな。  
” ”

って、いつて、

抱きしめてくれた。

ダイチに抱きしめられて、

キズが消えた。

心の奥についた

絶対に消えないこの

深い深いキズが・・・

多分、ダイチの事で

ついたキズだから、

ダイチ自信が消したのだろう。

他のひとに、抱きしめられても、

消せなかった、この

深い

深いキズは・・・

いとも簡単に

消えました。

あたしたちわ、

あれから、付き合う事になりました。

あれから、2年。

今、あたしわ

中学1年。

もちろんダイチも・・・

でも、この時

この楽しい毎日

あっというまに、

無くなる事に、

気がつかなかった。

いや。

今もまだ．．．．ダイチの事がすきだから。

認めてナイと思う。

あなたがいた、この毎日。

それが、すべて

おもいでとなつて、

消えていくなんて・・・・・・・・

あたしわ、現在中1!!

今日もダイチと登校!っと思ってた。

でも、ダイチは寝坊。

あたしわ

1人で学校に・・・

それから、ダイチと  
逢う事わなかった。

〜最終章〜

「嘘ッ!？」

ダイチが・・・・・・・・・・?

ダイチが死んだなんて・・・・・・・・・・嘘だよね??？」

ねえ?嘘ってゆってよ!!!!!!

ねえ?」

「残念だけど、

本当だ。

学校に来る途中、

トラックに・・・／

「なんで???」

「や。それわ・・・」

「なんで、ダイチが死ななきゃ・・・／／

ダイチ・・・

ダイチ・・・

世界で一番すきで

大切な人が・・・

あたしわ、泣いた。

ずっと

ずっと……

ただ、時間だけが、

流れるこの部屋で……

（神様？

あなたは、やっぱり、

いじわるだね。

ダイチわ何もしてない。

悪い事も・・・

クラス替えも、

病院でのことも・・・

あなたわ、いじわるだ。

一度、神様を、

信じた事がありません。

でも、やっぱりあなたわ

神様なんかでわなく

いじわるな、

人です。

今、あなたにたくさん

聞きたい事でいっぱいです。

どうして、あたしの前から、ダイチを隠したの???

どうして、??

ダイチが貴方になにかしたの???

神様なら、トラックに

ひかれそうに、なった

ダイチを助けられたンデヤ、ないの???

なんで、助けてあげないの??

いっぱい、聞きたい事あるよ。

でも、今はこえがでないの。

一気にたくさんの事ありすぎたから……。

ダイチ。痛かったよね？？

あたしが、変わってあげたいよお。

ダイチ・・・／

ダイチ・・・

あれから、1年。

今は、中学2年生。

わたしは、いまでも

ダイチに恋してます!!

もう一生ダイチにわ

逢えないけど、

生まれ変わって、

あたしの所に帰って来てくれるのを、

まってる。

待ってるから。

いつか、

いつか、

戻ってきてね。

あたしの

あたしの

大好きな

ダイチ。。。。

ずっと、イマのままで

いるから。

だから、できるだけ早く・・・

迎えに来て！！！！

あたしが、ダイチに  
恋して、

やく5年!!!!!!

いろんな事があつたけど、

楽しかったよ!!

ずっと、

ずっと、

あなたが

好きでした。

あたしに

ダイチがいない世界わ

無理だったけど。

今はもう大丈夫!!

だから、安心して!。

ぢゃあ。ダイチが戻ってくるまで、

何年も、何十年も

待ってるから。

違う世界で生きてみるのも、

悪くナイかもね。

淋しいけど

あたしの

心には

ダイチが張ってくれた

心のキズに張ってくれた、

絆創膏が光ったのが、

分かった。

ここで、繋がってるもん!!!!!!

じゃあ、また、いつの日か……

あえるのを楽しみにしてます。。。。

苦い恋だった……

その上辛かった。

でも、あなたは

一生あたしの中で

生き続けてるよ！

あたしの中で

ずっと。

永遠に。

ありがとう

ダイチ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5222c/>

---

～ 苦い恋愛話 ～

2010年10月11日01時56分発行